

阿岐のまほろば

Vol. 7

弥生時代の3連倉庫？

うしろきこ 後迫1号遺跡 (西条町吉行^{よしゆき})



後迫遺跡は、山陽自動車道西条ICのすぐ北の小丘陵上に位置する遺跡です。

住宅団地の造成に伴って、平成8年4月に約250㎡の範囲を発掘調査しました。

調査の結果、弥生時代後期の建物跡や貯蔵穴^{ちよぞうけつ}が見つかりました。上の写真は、深さ・直径ともに約1.5mの穴が3基重なり合って見つかったもので、この穴は、物を貯めておく倉庫のようなものだったと考えられています。当時の人は、どんなものを入れていたのでしょうか。



後迫1号遺跡位置図 (1:50,000)

江戸時代の下見村

鴻の巣東1号遺跡（西条町下見）



鴻の巣東1号遺跡は、西条町下見、広島大学のすぐ北に所在する遺跡です。

土地地区画整理に伴って、平成8年5月から8月まで約3,000㎡を発掘調査しました。

井戸や石垣、池、溝、ゴミ穴などから、陶磁器の茶碗や皿などの、当時の人達の日常生活をうかがえるものが多く見つかりました。その結果、中世末から江戸時代を通じて近代まで、人が住み続けていた場所であることが分かりました（調査前は水田）。



鴻の巣東1号遺跡位置図（1：50,000）

焼 け た す ま い

おごえ 小越遺跡 (志和町志和東) し わがし



焼けた住居

小越遺跡は、昨年度に引き続き、平成8年4月から10月まで発掘調査を実施しました。今年度は、約4,000㎡を調査し、弥生時代中期から後期の竪穴住居などを検出しています。

写真は、火災に遭った住居で、弥生時代後期の



小越遺跡位置図 (1:50,000)

初め頃(約1,800年前頃)のものです。一辺3m足らずと比較的小規模な隅の丸い住居跡の中には、柱などの木材が焼けて倒れ、炭になって残っていました。

この住居の床からは、当時使われていた土器が、火災に遭う直前に置かれていた場所からほとんど動いていない状態で、14個ほど出土しています。土器の種類と内訳は、甕7個・壺4個・壺用の蓋1個・鉢2個で、これらの土器はこの住居で同時に使われていて、火災がおきた時に持ち出すことができなかったようです。

当時の住居1軒で使用されていた土器一式がそのまま出土することは珍しく、火災にあった当事者には申し訳ないことですが、この時代の研究を進める我々にとっては大変貴重な発見です。

中世から近世に移り変わるムラ

上溝上3号遺跡 (西条町上三永)



掘立柱建物跡群

上溝上3号遺跡は西条町上三永に所在し、ほ場整備に伴い、平成8年6月から9月まで発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代から江戸時代までの掘立柱建物跡がたくさん見つかりました。建物の規模はさまざまで、1間×2間から2間×4間のものまでありました。

この建物の柱と柱の間隔を調べることで、使っていた尺度がわかり、時代が特定できることもあ

ります。上溝上3号遺跡の場合は、ほとんどの建物が中世と近世のもので、何度も建て替えた様子うかがえます。

また、この建物跡は田畑のすぐ横に建てられていることや、江戸時代後半以降になると住居としての掘立柱建物は少なくなる（礎石建物になる）ことから考えると、農作業用の小屋として使われていたのでしょう。

~~~~~

☆『阿岐のまほろば』は、東広島市内の発掘調査を速報的にお知らせするため、無料の不定期刊行としています。市役所・市民文化センター・図書館などでお受け取り下さい。また、在庫がない場合は直接文化財センターにご連絡下さい。



上溝上3号遺跡位置図 (1:50,000)

東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

### 阿岐のまほろば Vol. 7

発行日 平成8年12月20日

編集 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター

発行 東広島市西条町大字馬木541-1

TEL 0824-25-3880 〒739

印刷 電子印刷株式会社